



こぼりの子

令和4年10月20日発行

No.6

児童数662名

櫓（やぐら）と電飾のもと、シャボン玉とこぼりっ子の笑顔がはじけた1日

校長 山田 哲哉

9月23日（金）、8月から延期していた「小針納涼大会」を3年ぶりに開催しました。「こぼりっ子の笑顔を見たい」という地域の皆さんの強い願いがありました。また、「3年やらないままだと、復活できなくなる」「計画・運営の経験者が少なくなり、継承できなくなる」という懸念もありました。そこで、たとえ規模を縮小し、時間を短くしてでも実施することになり、実行委員会の皆さんを中心に計画、準備を進めてきました。

前日には、グラウンドに、立派な櫓（やぐら）と電飾が設置されました。関係者が雨雲レーダーとにらめっこし、天候の変化を予測しました。当日の朝は早くから、実行委員の皆さんが大勢集まり、テント立てをはじめ会場の準備をしてくださいました。

雨が上がることを願っていましたが、あいにくの小雨の中、納涼大会が始まりました。

始まってすぐ、チケットを買い求める皆さんの、チケット売り場から玄関まで続く長蛇の列に驚きました。まだまだ続く感染禍や天候から、参加者は少ないと予想していたからです。このままでは、グラウンドのシャボン玉パフォーマンスを見る人が少なくなってしまう。そこで、急ぎょチケット売り場を本部テントの隣に移動しました。

実行委員の皆さんや地域の各団体が運営する各ブースは、人であふれ大盛況でした。自ら実行委員を希望した子どもたちによるゲームコーナーも大人気。自分たちもいろいろ回りたいでしょうに、「おもてなし」の精神で、お客さんを楽しませていました。

社会福祉協議会の方からは、「おこづかいの中から寄附をする子どもが大勢いて素晴らしいですね」と感謝され、うれしく思いました。

浴衣姿でお祭り気分を味わう子どもも大勢いましたが、雨足が強くなり、盆踊りはやむなく中止となってしまったのが残念でした。



左上の図は小針小学校の教育ビジョンです。納涼大会後にこれを見て、私は、真ん中の「応答力」の三つの円の周りを地域の様々な団体が取り囲む様子が、まるで納涼大会でグラウンドに設置された櫓と電飾のように見えると強く感じました。

雨の中、シャボン玉とこぼりっ子の笑顔がはじけた納涼大会を初めて経験し、小針小学校の教育が、保護者・地域の皆様に支えられて成り立っていることを改めて実感しました。

2ページ目以降に前期の学校評価結果をお示しいたしました。後期もよろしくお願ひいたします。

